

# S. G. Eの血流作用について

産業医科大学 菅野久信

今回、S. G. Eと呼ばれるニューセラミックスを用いて、皮膚表面の血流に対する作用を見たので報告する。

## 実験方法

健常者3人をそれぞれサラ湯（40℃）とS. G. E投入湯（40℃）に5分間入浴させ、入浴後5、10、15、25、35分の皮膚温度分布を日本電気三栄のサーモトレーサーを用いて観察した。

## 結果

図に示すように、サラ湯では入浴直後は勿論全身の皮膚温度は高くなるが、15分経過すれば皮膚温は下降する。これに反して、S. G. E投入湯では、入浴直後はサラ湯と殆ど同じであるが、25分経過後再び皮膚温の上昇が見られ、これが持続することが観察された。

## 結論

皮膚温の上昇は末梢血管の拡張によるものであり、入浴直後は皮膚血管が拡張して皮膚温が高まるのは当然である。この皮膚温は外気により冷却されて、血管収縮を引き起こし、皮膚温は下降する。S. G. E投入湯では、逆に時間経過と共に皮膚温上昇の傾向が見られたのは興味ある。これはS. G. Eより発する遠赤外線が深部組織の温度を上昇させ、その温度が皮膚表面に伝達したのではないかと思われる。

この結果から、S. G. E投入湯は身体内部の器官に対して有効であると思われる。